

活動報告

団体名	逢桜の里
活動名	被災者の日常を取り戻す為のおもやり(分け合い共有する意の熊本弁)活動
活動期間	2016/04/19 ~ 2016/05/21
活動の成果	<p>私たちの“おもやり（分け合い共有する意の熊本弁）活動”は、私たち自身が熊本地震の被災者であったため、「できるしこ（頑張るけど、頑張りすぎないの意の熊本弁）」の活動でした。その中でも特に次の3点は「被災者の日常を取り戻すための活動」として力を注ぎました。</p> <p>①益城町保健福祉センターにおけるトイレ清潔保持：被害が大きかった益城町で2番目に避難者が多かった場所。そのトイレを気持ちよく使っていただくために、こまめに清掃を実施。環境にも優しい「消臭剤ZERO」を投入し、悪臭も防ぎました。</p> <p>②新町・古町「古民家・町屋支援」：江戸時代から続く町屋の「清永本店」の母屋と蔵の被害は大変ひどい状態でした。ブルーシートが屋根にかけられないため、工夫をして居住部の雨水降込みを防ぎました。周囲の解体が進む中、修復を望む「清永本店」に寄り添い、常に現状を発信し続け、現在は町屋存続の支援、協力団体も増えてきています。</p> <p>③若葉校区「こどもの日笑みプロジェクト」等： 足湯支援、落語の提供を実施。癒しの時間になりました。5月5日の「こどもの日」には大綱引きなど楽しいイベントを開催し参加者は笑顔いっぱいになりました。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>この度は逢桜の里「被災者の日常を取り戻す為のおもやり(分け合い共有する意の熊本弁)活動」に赤い羽根「ボラサポ・九州」の助成をいただき、中央共同募金会ならびにご寄付をお寄せいただいた全国の皆さまに深く感謝申し上げます。</p> <p>私たち自身が熊本地震の被災者であり、自宅が大規模半壊や半壊をしたメンバーもいる中、一人でも多くの方々が地震前の日常を感じられる日々を取り戻すことができるよう一生懸命に活動しました。</p> <p>活動する中、熊本地震で何が起きたのか、何が必要だったのか、どう復興していったのかを語り継ぐ「語り部」が必要だと感じました。</p> <p>50年後、100年後に熊本地震のことを伝えていくためにはどうしたらいいのだろうと日々考えています。</p> <p>5年、10年と人々の記憶から薄れてくると思います。</p> <p>修復し完成した「古民家・町屋」が、被災時の姿を目の当たりにできるような災害遺産の場所となれば、震災を語り継げる一つの方法になるのかもしれない。</p> <p>私たちのそれぞれの活動はその後形を変えて継続しております。</p> <p>皆さまの善意のご寄付で購入させていただきました物品を大切に使い、地域、世代間交流の場「逢桜の里（あいらのさと）」を2か所で開設させていただいております。</p> <p>これからも熊本人が不安なく過ごしていけるよう、共につながっていける活動を展開していきます。</p>

(活動のようす)

